

令和7年度小平市立小平第八小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

全体の正答率は、全国平均を約14ポイント上回り、「思考・判断・表現」のポイントが高かった。特に「読むこと」では、全国平均を約17ポイント上回った。「知識・技能」は、約10ポイント上回った。

課題

全国平均は上回ったものの、必要な情報の読み取りに課題が見られる。「目的に応じて、文章と図表などを結び付け、必要な情報を見付けられるか」という設問の正答率が約59%のため、情報の読み取りに関する指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

週1回設定されているモジュール（15分間の学習）や家庭学習を利用して、漢字や言葉の指導を引き続き行う。語彙や表現力、情報を読み取る力を高めるため、読書活動も大切にしていく。読書量を増やすことで、様々な文章に触れ、話の内容を正しく読み取る力を付けたい。作文については、書き表し方の基本を丁寧に指導し、ねらいや書く内容を明確にしてから文章を書くことに力を入れる。

【算数】

状況の分析

全体の正答率は、全国平均より約12ポイント高く、どの領域でも全国平均を上回った。基本的な学習内容は身に付いている児童が多く、特に「知識・技能」のポイントが高かった。一方、「データの活用」に関する問題の中には、都平均をやや下回るものもあった。

課題

目的に応じて、適切なグラフを選択して判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかという設問の正答率が約33%だった。記述式の正答率が低いことから、必要な情報を読み取り、言葉で表現する力を付けるための指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

ペア学習やグループ学習を取り入れ、考えを友達と交流し、言葉で表現する機会を設ける。習熟度別の発展コースでは、発展問題に精選して取り組み、統合的に考えたり、多面的に考えたりできるようにする。また、補充コースでは、既習学習に繰り返し取り組み、学習内容の定着を図る。「データの活用」では、複数のデータを比較しながら読み取るなどの活動を取り入れ、読み取ったことを表現する学習を積み重ねるようにする。

【理科】**状況の分析****課題**

全体の正答率は、全国平均より約10ポイント高く、どの領域でも全国平均を上回った。特に「生命」に関する設問では、全国平均を約17ポイント上回った。一方、「エネルギー」「粒子」では、全国平均をやや下回った。

身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかという設問の正答率が約10%だった。「知識・技能」のばらつきがあり、電気や磁石に関する知識を身に付けるための指導が必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

実験結果から考えたことを自分なりにまとめる時間や話し合いの時間を十分にとる。結果を正確に記録し、既習事項や生活経験と結び付けて考察を書くよう促す。必要に応じて書き出しの言葉を提示する。単元の最後に学習内容に関連した環境問題等を調べる時間を設け、それに対する自分の考えを書くことで、幅広く知識を習得できるようにする。

【質問紙】**状況の分析****課題**

「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に起きている」と答えた児童は95%を超え、生活習慣が整っている児童が多い。「幸せな気持ちになる」「友達関係に満足している」「学校に行くのは楽しい」と答えた児童の割合が全国と比べて高く、日々の生活に満足感を抱いている児童が多いことが分かった。

「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童が、約80%で全国や都の平均よりやや低い。キャリア教育的な視点や多様な職業・生き方に触れる機会を増やし、自分の興味関心から将来の可能性を見いだすことができるように指導していく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

全教職員で共通した生活指導を行うことで、生活習慣や規範意識を更に身に付けていく。また、家庭にも学校での指導について説明し（保護者会・お便り等）協力を呼び掛けていく。一人一人が活躍する機会を設定し（行事等での役割・委員会活動での発表・ブロック班活動・各教科学習での発表等）目的を達成するために友達と協力して取り組む活動を経験することで、目標を実現する達成感を味わえるようにする。生活科や総合的な学習の時間を中心に様々な学習を通して、キャリア教育的な視点や多様な職業、生き方に触れる機会を設定し、将来に希望がもてるように指導を工夫していく。